

# 「即時反応に於けるスキップのリズム認知について」

——スキップの調査を通して 第1章——

## Die Erkennung vom Hüpfrythmus bei der unmittelbaren Reaktion

- Durch Untersuchung vom Hüpfen Erstes Kapitel -

中嶋 栄子

**Zusammenfassung** : Die im Spiel von Kindern kultivierten Sinnesorgane entwickeln sich aufgrund zahlreicher Reize und führen so eine reiche Sinnlichkeit. Und durch viele bewegende Eindrücke und Erfahrungen wird in den Kindern Individualität hervorgerufen. Die Bereitstellung einer entsprechenden Umgebung und Hilfestellungen durch die damit beauftragten Erzieher ist äußerst wichtig. Von Erziehern im Unterricht behandelte Lieder und geleitete Spiele sind für die Kinder äußerst interessant und helfen, die Sinnesorgane und eine flexible Geisteshaltung zu entwickeln. Die Anleitung zum Erwerb musikalischer Grundlagen muss die praktische Erziehung sein, die interessant und ausdrucksstark ist und auch ein starkes Gefühl der Berufung prägt. In diesem Zusammenhang haben wir als Prozess zunächst hinsichtlich der Erkennung von Rhythmus als Grundlage eine Untersuchung in Verbindung mit der unmittelbaren Reaktion bei Hüpfen durchgeführt.

**要約** 子ども達の遊びの中で培われる感覚器官は多くの刺激を通して育まれ、豊かな感性を養い、たくさんの感動や体験を通して子どもの個性が導き出される。それを担う保育者が作り出す環境や援助は極めて重要である。保育者によって展開される童謡や手遊びは子ども達にとってとても興味深く、感覚器官が育成され脳の柔軟性が養われる。そして、これらの音楽的基礎力を図る指導、興味を持つような保育と魅力ある表現力は、大きな使命感をもたらす実践教育でなければならない。今回、そのプロセスとして、まずは基本となるリズムの認知について、即時反応に於けるスキップを通じた調査を行うこととした。

キーワード：リズム、スキップ、実践教育

### I. はじめに

本学におけるピアノレッスンⅠ～Ⅳは卒業必修科目となっており、1コマを5人の教員で手分けして、教員1人あたり、学生5～6人を担当し個人レッスンを行うことを長年に渡り継承している。保育者として必要な技術・技

能を修得させるため、「ピアノ演奏基礎」と「童謡弾き歌い」の指導を展開し、1年次には楽曲の試験を2回、童謡弾き歌い試験を2回、そして、2年次には楽曲の試験を2回、童謡弾き歌い試験を5回行っている。

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連

携型認定こども園・保育要領」の3つの法令の中で、「豊かな感性と表現」について示されているが、保育の現場で表現する喜びを味わい、子どもに意欲を持たせる弾き歌いが出来るようになるためには相当な力量が必要である。ところが、年々ピアノ未経験の入学者が増加してきており、ピアノ実技習得には学生、指導者共にながりの労力を必要とする現状にある。ピアノレッスン以外の音楽関連教科においても、音楽を構成するリズム・メロディー・ハーモニー・合唱Ⅰ（ソルフェージュ）を基本とする指導を行っている。音楽理論において音価の長さの概念を理解出来たと思っても、楽曲のピアノ試験や弾き歌いの試験において、シンコペーションや3拍子の拍感・アフタクト・スキップのリズムと8分音符のリズムの違いを正確に表現出来ない場面が多々見受けられる。その解決の糸口として、本稿ではスキップのリズムに焦点をあて、実際に童謡のCDに合わせてスキップをする調査を行う事により、即時反応とピアノにおけるスキップリズムとの相関関係を紐解くこととした。

## Ⅱ. 対象および方法

### スキップ調査

#### 1) 調査方法

童謡「あめふり」のCDを聞かせ、前半8小節（ひらがな表記）は行進又は足踏み、後半4小節（ピッチピッチ チャップチャップランラン）でスキップを行ってもらった。

これを1番～4番まで繰り返し、

- ・リズムに合っていてフォームも良いを○
- ・リズムが微妙にズレている場合を△
- ・リズムに合っていない、スキップが出来ない場合を×とした。

本稿では、スキップリズムに合っていてフォームが良かった○の割合をグラフに表してみる事とした。

#### 歌詞 [あめふり]

1番あめあめ ふれふれ かあさんが

じゃのめで おむかい うれしいな

ピッチピッチ チャップチャップ

ランランラン

2番あらあら あのこは ずぶぬれだ

やなぎの ねかたで ないている

ピッチピッチ チャップチャップ

ランランラン

3番かあさん ぼくのを かしましょか

きみきみ このかさ さしたまえ

ピッチピッチ チャップチャップ

ランランラン

4番ぼくなら いいんだ かあさんの

おおきな じゃのめに はいってく

ピッチピッチ チャップチャップ

ランランラン

#### 2) 研究期間

2018年10月～2019年1月

#### 3) 倫理的配慮

対象者には研究の協力依頼についての説明を行い、データは匿名化して入力し個人が特定できないように配慮する事を説明した。同意を得られた分のデータを研究対象とした。

#### 4) 調査対象

今回の調査に3歳～61歳までの448名の協力が得られた。

①幼児 24名 (3才児 8名、4才児 8名、5才児 7名)

②小学生 54名 (1年生 3名、2年生 39名、3年生 7名、4年生 5名)

③中学生 92名 (1年生 25名、3年生 67名)

④高校生 142名 (1年生 4名、2年生 68名)

⑤保育者 46名 (平均年齢 40歳)

⑥短期大学部学生 2年生 90名

### Ⅲ. 結果

図1. 幼児

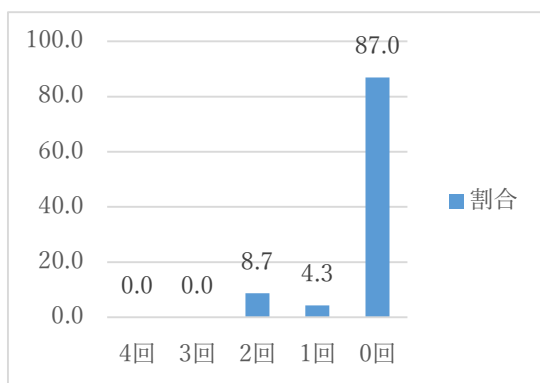


図4. 高校生

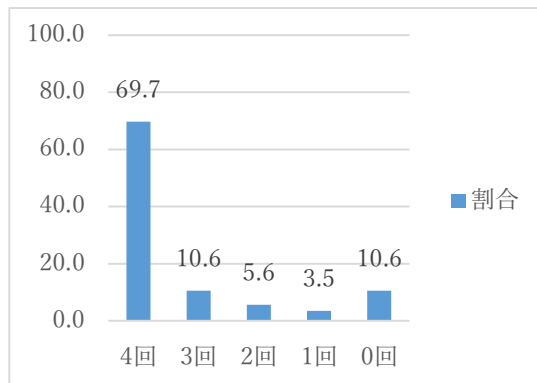


図2. 小学生

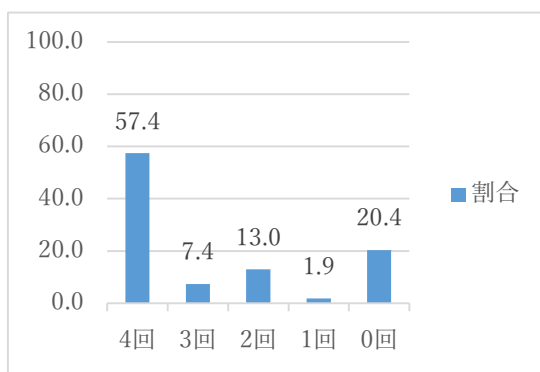


図5. 保育者

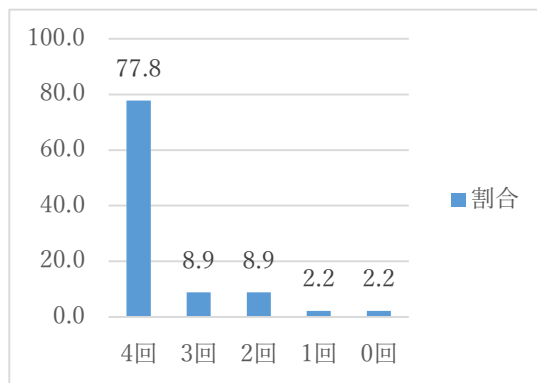


図3. 中学生

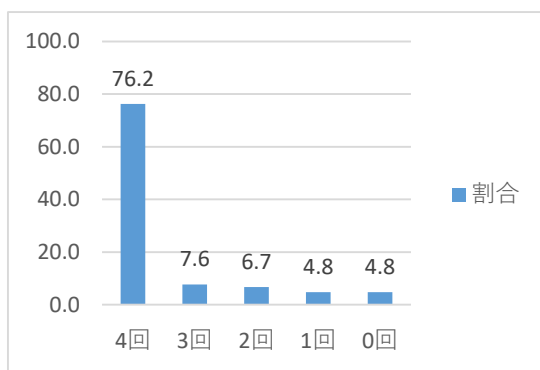
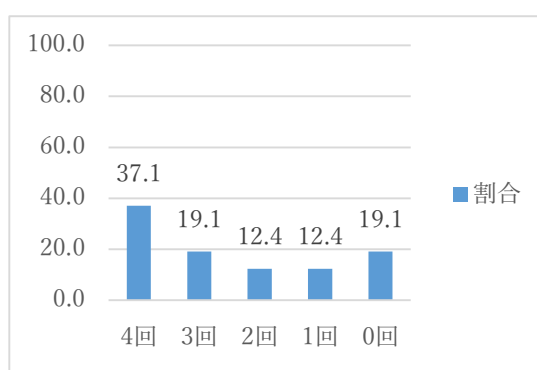


図6. 短期大学部学生



#### IV. 考察

##### 1. 即時反応

- 1) 幼児は童謡「あめふり」を初めて聴く曲で、初体験ということもあり足踏みからスキップへ切り替えがスムーズに出来なかった。脳や身体が未発達であるためと考えられる。しかし、調査に協力してくれた園では日頃から保育にリトミックを取り入れており、保育者のピアノに合わせた即時反応では正確なスキップが出来ていた。そして、1歳7ヶ月の未満児が以上児と共に即時反応を実践していた。
- 2) 小学生はスキップの指導を受けたことがある児童であった。授業等で継続した取り組みを行っているクラスでは正確にスキップが出来る割合が高かった。
- 3) 中学生はほとんどの生徒が高い割合を示している。身体全体でリズムをコントロールできるようになり、感覚機能の発達が関係しているものと推測される。
- 4) 高校生もほとんどの生徒が高い割合を示している。部活でラダーやドリル等のトレーニングを行っている生徒は正確なスキップであった。1番が正確でなかった生徒は2番以降も出来ない傾向が見られた。
- 5) 保育者(28歳~61歳までの教員免許更新講習の受講者)の即時反応は、笑顔で腕を振りながら子どもの手本となる正確なスキップであり、高い割合が示された。また初見による一斉リズム打ち(資料1)では、完璧とはいえないが、和合が図られた奏法となり、職業意識の高さが伺われた結果となった。

- 6) 短期大学部学生は積極的に調査に協力してくれたが、スキップを正確に出来る者とそうでない者とに広く分散した。本学へ入学してからの体育の授業でスキップの経験はないが、本授業(音楽)に於いて附属幼稚園の子ども達への指導のためにスキップを経験していたことから、予想外の結果であった。この結果の原因の究明が今後の課題の一つである。

##### 2. リズム指導の実践

音楽の最初の授業でリズムカード作りを行っている。そのリズムカードを活用し附属幼稚園園児達とリズム奏法の実践を(15コマの中での6回)展開させ、視覚からも各音符の示す音の長さの認知につなげ、リズム練習に取り組んでいる。同時に、2分音符・4分音符・8分音符・16分音符に付点がついた場合の音の長さの概念についても理論的指導を行なっている。また、次に示す資料1のリズム譜を利用し、1番から15番までノンストップの一斉リズム打ちにも取り組んでいる。この取り組みにより、拍とリズムの刻みを音楽的につなげられるようになってくるため、童謡弾き歌いの初見演奏において有効である。今後、視覚で捉えたリズムから空間を意識した全音符・2分音符などの長音符を含めた、即時反応の調査を実施したいと考える。

資料1. <リズム打ち>

Rhythm

15 lines of musical notation, each starting with a treble clef and a common time signature (C). The notation consists of rhythmic patterns of eighth and sixteenth notes, some with stems pointing up and some pointing down, indicating a sequence of rhythmic exercises.

V. おわりに

即時反応とピアノ演習におけるスキップリズムとの相関性を明らかにするためには、学生の練習の実態調査や意識調査等、多方面からのアプローチが必要である。子どもは嬉しい時、楽しい時、無意識にスキップをして感情表現をしている。童謡にも枚挙にいとまがないほどスキップリズムが活用されており、スキップリズムは童謡の代名詞とも言えると思われる。今後も即時反応の調査を継続し、スキップリズムの定着は勿論のこと、音楽的美意識を表現できる実践活動につなげたいと考える。

執筆者紹介（所属）

中嶋栄子 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 講師

VI. 謝辞

今回の調査にあたり、ご協力くださった皆様に衷心より感謝とお礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 附田勢津子、田端利則、佐藤愛子  
中嶋栄子、橋本知子、大久保等共著：幼児保育学科における「ピアノレッスンⅡ・弾き歌い」の科目評価について  
八戸短期大学研究紀要  
第36巻 2013年3月29日
- 2) 中嶋栄子 附田勢津子 宮澤君子  
切明美保子共著「ハンドベル演奏体験と感覚器官における感度の向上」  
～身体とところに働きかける実践～  
八戸学院大学短期大学部研究紀要  
第47巻 2018年12月21日
- 3) 音楽教育研究協会編：幼児教育・保育士養成のための新編・幼児の音楽教育  
—音楽的表現の指導—  
2013年3月20日
- 4) 新井恵美 大学生にたいするリズム指導の試み—付点音符を中心として—  
宇都宮大学教育学部教育実践紀要  
第3号 2017年8月1日